

# 開園記念日 R2.8.1(土)



みなさまに支えられました  
二十九年が経ちました  
ありがとうございます

# 里だより

No.344

令和2年9月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



副施設長より……………1

サビ管より……………2

主任より……………3

職員より・医務より……………4

サービス向上委員会より・  
研修報告・行事報告……………5

行事予定・  
ありがとうございました・  
お知らせ……………7

九月号もくじ

(ページ)



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



## 副施設長より



今年は、例年より遅れた梅雨明けと、新型コロナウイルスの影響で、外出することもままならず、短い夏になることは覚悟していたものの、立秋を過ぎてもただただ暑すぎます。熱中症予防のため、利用者さんには水分をこまめに摂っていただいていますので、今のところ暑さで体調を崩されている方はいらっしゃいません。

しかし、報道によると、新型コロナウイルスと熱中症の症状が似ていると厄介な情報が入ってきました。まずは、「施設にウイルスを持ち込まないこと」「施設内でウイルスを広げないこと」そのためには「一人ひとりが感染予防の意識をもって生活をする事」を念頭に支援しています。

今年は、お盆の時期も外出・外泊の自粛をお願いしました。ゴールデンウィークを挟む緊急事態宣言時の対応を経験されたためか、利用者さんもすんなり？受け入れていただきましたが、「コロナは、いつ終わると？」「年末、お正月には帰れるかな？」「おうちの人は、コロナに罹つたらっささんだろか？」と、この質問や話題が尽きることはありません。

利用者さんへは不安を煽るだけでなく、「手洗いなどの徹底」「三密を避けること」「換気をする事」で予防できることや、正しく怖がることをお伝えしています。

日本赤十字社では、新型コロナウイルスには感染症の顔が三つあるとしています。一つは「病気そのもの」、二つ目は「不安と恐

れ」、三つめは「嫌悪・偏見・差別」。これらは、負のスパイラルで拡大する可能性を持っています。

利用者さんへもこの三つの顔をお伝えしなければと思つています。その為には、職員が正しく理解することが大切です。目に見えない不安が、ウイルスに罹った人を見える敵と勘違いし、偏見や差別につながらないようにしなければなりません。

昨年の九月号で「共生の種」と題し、利用者さんの外出時のエピソードを書かせていただきました。偏見につながるような態度を、権利擁護を掲げる私たちがしてしまったら、元も子もありません。

誹謗中傷や人を傷つける言葉は、発してしまつたら取り返せなくなります。された方は一生心に傷が残ります。言つた方は人間性を疑われます。それを見聞きした人は不快な思いが残ります。これも一種の負のスパイラルと感染なのでしょう。それを止めるのは個人個人の心次第ですね。

さて、八月半ば、食事中に利用者さんが「Yさんは、何しよらすかなあ〜。」とふと一言。以前、在園期間中に亡くなられた利用者さんのことを話されました。新型コロナウイルス予防体制で、イベントなども自粛しているお盆の時期に、亡くなられた方々の想い出話をし、偲べる時間になりました。そんな時間は、負のスパイラルとは無縁のものでした。

お星さまになられた皆さん。つくしの里を見守ってくださいね。

副施設長 松永一博

## サビ管より



残暑厳しい毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。例年であれば出来ていたことが出来ない…という状況が半年以上続いています。このような日々を過ごしていると、今まで普通に出来ていたことが当たり前ではなかったのだと痛感しています。

しかし、無くなった日常を嘆くばかりではなく、「今あるもの」に目を向け、幸せを感じていきたいなとも思っています。

今回は、今年度初めての取り組みを少しご紹介します。

一つ目は「牛乳パック作業」を開始したことです。町内の学校給食で提供される牛乳パックを児童が洗い、リサイクルに出す前の解体作業を町内の就労・生活介護五事業所で受け持っています。つくしの里は火曜日担当。生活介護一・二・三班の利用者さんを中心に四班も何名か加わり、合計十八名で作業に取り組んでいます。「仕事が出来た！」と張り切っているTさんは、火曜日の午後三時を過ぎると、納品と出荷のために玄関を行き来されるほど、役割を自負されています。

ゆっくりと自分のペースを崩さず、毎日同じだけの個数を仕上げる方、目標数を職員と話し合いながら取り組む方、一人で三千枚を仕上げる方、みなさんのおかげで一ヶ月の作業数の四割を占める、圧倒的な数です。

作業工賃を二回支給しましたが、受け取った封筒を懐にしまい込んだり、貯めてズボンを買おうと言われたり、それぞれの嬉しさが伝わってきて、本当に良かったと感じています。

もう一つは、グループホームの世話人会議の際に、利用者さんと世話人さんの意見交換会の時間を持ちました。日頃からコミュニケーションは取れていると思いますが、改めて感謝したい事、お願いしたい事について意見を出す機会を設けてみました。

すると、利用者さんからは「いつも手伝ってくれてありがとう」との意見が多く、中には「カーテンの洗濯をしてくれて気持ちよかった」と良く見えているなあと感じる事を言われる方も。

一方、お願いしたい事では、「少し声大きい」とか「誰かと話しているときに割り込まないでほしい」などの意見があがりました。

反対に、世話人さんからは「利用者さんの声を直接聞いて良かった」「言われないと気付かないことも多かった」という感想があり、意見交換会をして良かったと思いました。

利用者さんからの話を又聞きで伝えることはありましたが、直接聞くのとは違ってくると思います。そのため、世話人会議だけではなく、職場内の虐待防止研修でも利用者さんに参加して頂き、要望を伝える場を持ちました。良かれと思っただけでも、利用者さんからするとそうではなかったり、「利用者さんは嫌なんじゃない？」と周りが言うより、利用者さんに直接「嫌だ」と言われた方が何倍も響くと思います。

利用者さんからの直接の意見をもっと大切にしていきたいと思えました。

サービス管理責任者 木庭 由香



## 主任より

### 父親



私の年齢も、私が生まれた頃の父親の年齢と近くなりました。最近はその頃の父親の事をよく思い出しています。

幼少期の父は仕事一筋で、厳格なイメージがありました。昔氣質の父親らしい父だったと思います。自営業を営んでいた父は、毎日忙しく、家にいない事が多かったので、幼少期の私の記憶にはあまり残っていません。それほど仕事が大変だったのだと思います。

そんな大変な状況で、母親と共に子ども一人前に育てあげてくれました。忙しい合間にも、連休には旅行やキャンプ、バーベキュー等、いろいろと経験させてくれました。今思い返すと、どれも楽しかった思い出です。

今年も父親になる予定です。まだまだ実感が湧いていないのが正直なところで、幼少期の父のように父親らしくなれるのか、とても不安です。子どもや妻にとって良い父親になれるよう、まずは振舞いから心掛けたいと思います。

肩書が増える事は責任が増える事だと思えます。父親という責任を一つひとつ果たしながら、良い父親像に近づきたいと思えます。

又、家族のためにも、これまで以上に仕事に精を出し、主任としての責任も果たしたいと思えます。

主任支援員 平田 雄一

### 笑顔が届きます様に

つくしの里に入職して間もなく、職員間で歓迎会を開いて頂いた事がありました。ある先輩職員から「新人は一芸を披露する場がある」と聞き、何をしようかと悩み、以前見に行ったクラウンを真似して出し物してみました。その事がきっかけで、様々な行事で依頼を受ける事になり、披露する機会が増えていきます。

今回の開園記念祭の出し物でも依頼を頂きました。年齢・性別・班など違う様々な方に楽しんで頂ける出し物は何かとても悩みましたが、一緒に担当になった職員と協力し、首が回るマジックと皿回し、二人羽織をする事になりました。

「二人羽織りは古くさい」と思われる方もいるかもしれませんが、最近流行りのSNSで若者も知っているそうです。私は羽織の後ろの役でしたが、前の役の職員は顔の色んな所に化粧をされたり、生クリームが口以外の所に付いたり、大変だったと思います。前の役の職員には申し訳ないですが、利用者さんは沢山笑って下さいました。終了後、利用者さんから「出し物良かったぞ」「面白かったよ。ありがとうございました。」などと声を掛けて頂くこともあり、とても嬉しく感じました。

今はコロナ禍で楽しいことがなかなか出来ない世の中になっていますが、その中でも出来る楽しい事を見つけていきたいなと思います。毎日の生活の中で「笑う」という事をこれからも大切にしていききたいと思えます。

主任支援員 松若 るみ



## 職員より

私が担当をしている H さんはブラジル生まれの熊本育ちです。幼い頃の写真をみると、小さい時から顔立ちが整っておられ、お父様からとても可愛いがられていたそうです。若くして両親が亡くなられたことで、ブラジルから熊本へ来られたそうです。細かい事は気にしない、とてもおおらかな性格です。運動神経が良いので、運動系のレクリエーションでは大活躍されています。

そんな H さんは、自分の事より周りの人を気遣い、4 班の空き缶整理、野菜の収穫や販売等、職員の手伝いもたくさんして下さいます。そんな彼女が今一番心配しているのは、やはりつくしの里のみんなの事。「みんな仲良くして欲しい」と良く言われています。外出や外泊が出来なくて悲しそうにしていたり、イライラしたりするのを見るのが辛いでしょう。コロナが収まったら、大好きなみんなと一緒にとびきりの笑顔でお洒落して食事や買い物に出掛けたいと思います。(支援員 川上)

今回は、私の担当させていただいている N さんの話をしたいと思います。

新型コロナウイルス感染者が大津町内に発生した事や、熊本県の警戒レベルが「レベル 4」になった事で、つくしの里の利用者さんには新棟・旧棟で分かれて過ごしていただいています。N さんは生活介護班 5 班の所属で、普段は製函作業をされています。N さんの居室は新棟にありますので、今の体制になってからは作業には参加せず、ゆっくりと余暇活動などをして過ごしていただいています。私は日中、班の活動場所にいますので、担当でありながら、N さんの姿をあまり見かけなくなり、たまに会うと「なんぼしよったとね～」と話し掛けてくださいます。

先日、夜勤に入った際、久しぶりに N さんとゆっくり話をしていると「今日は泊まりね。嬉しかわ～」と笑顔で言ってくださいました。N さんは高齢ではありますが、日頃は作業を生きがいとされており、いつも助かっています。

早くコロナウイルスが落ち着き、N さんと一緒に作業を再開できる日を祈っています。

(支援員 村上カ)

## 医務より

今年は新型コロナウイルスの影響でマスクが手放せない年になっています。利用者さんにも可能な方には通院先でのマスク着用をお願いしていますが、すぐに外されてしまう方や気になって繰り返し触ってしまう方もいらっしゃいます。新しい生活様式の一つでもあるマスク生活が当たり前になるには、まだまだ時間がかかりそうです。

8 月に入り、施設内では感染症の流行はみられていませんが、発熱で受診された方が数名いらっしゃいます。体温を超えるような気温が続いているため、熱中症も心配です。マスクをしていると皮膚からの熱が逃げにくい、マスク内は湿度が上がるため喉の渇きを感じづらく脱水を起こしやすいと言われていています。職員は常時マスクをしていますので、喉が渇く前の水分補給を心がけて、利用者さんにも定期的な水分補給を促し、熱中症を予防しながらこの暑い夏を乗り切りたいと思います。(看護師 松村)

## サービス向上委員会より

### ■ 事故防止【主任支援員 山中・支援員 外山・穴井ル】

共同生活を送る中で、利用者間のトラブルが原因で怪我をしまったり、高齢になると、ふとした拍子に段差等で転倒して怪我をされたりする方がいらっしゃいます。事故防止委員会では、過去の事故事例を検証し、利用者の方々が安心・安全に園生活を送れる様サポートする事を目的に、様々な取り組みを行っています。

今年度は、下記の内容を基に活動しています。

- ① ハード面の改善（危険な場所の報告と片付け、職員間で情報を共有し注意喚起を図る）
- ② KYT（危険予知トレーニング）を通し、利用者の方が余暇活動や作業を行う場所にどのような危険性があるか？また、どの様に工夫すれば事故防止へ繋げる事が出来るか？を職員全体で考える
- ③ 季節に応じた取り組みとして、梅雨の時期に必要な応じて除湿やマットを使用して転倒防止に努める

近年、各班のケース会議で月間の発生事故の報告と検証等を実施し、職員間で情報の共有化を図っています。事故が起こらないような環境作りと並行し、疾病や利用者さんの心身の状態を的確に把握する事で、配慮不足による事故の軽減に努めたいと思います。

## 研修報告 ※ 7/21(火)～8/20(木)に受講した研修について報告します。

### ◆ 強度行動障がい支援者養成研修【7月21日(火)～22日(水)熊本県総合福祉センター】

強度行動障がいの特性と支援の仕方について学んできました。自分が行ってきた支援、利用者さんとの関わり方はどうだったかなと振り返りながら、これからどのようにしていかなければならないのかを考える機会になりました。

支援するにあたり、一人ひとりに合った「構造化」を図り、言語コミュニケーションだけではなく、絵や写真を用いた非言語コミュニケーションを使うことも有効な手段だと知りました。一人ひとりの特性が違う事を理解し、小さなことでも「なぜ？」「どうして？」という疑問を持つ事を忘れず、追求し深く理解できるよう努めていきたいです。

又、行動や表情から出る言葉をキャッチし、気持ちの良い生活が送れるよう支援していきたいと思います。  
(支援員 田中)

## 行事報告 ※ 7/21(火)～8/20(木)の実施分について報告いたします

### ★ 総合訓練【7月21日(火)つくしの里】

菊池広域連合南消防署立ち合いのもと、休日の閉所時（14：00頃）に、旧棟女性棟から発火したと想定し、9名の職員で消火・通報・避難訓練を実施しました。

火元に近い方を優先して避難させたり、利用者の実態に合わせて車椅子を使用したり、安全かつ迅速に避難ができていました。

ご利用者同士においても、不安な方の手を引いて避難をサポートいただける方がいて、協力される様子に有難く思いました。

(支援課長 今田)



### ★ お菓子つかみ大会【7月23日（木）つくしの里】

「クジ」を引き、書いてある数字分お菓子を取れると言うドキドキなイベントをしました。利用者さん達は何個食べられるか、ワクワクしながらクジを引き、お菓子を選ぶ時は「ゼリーがエエばい」「いやいやこっちのクッキーが良いばい」などと、微笑ましいやり取りが多く見られました。

新型コロナウイルスの影響で楽しみがどんどん減っていく中、少しでも喜んで頂けるように試行錯誤しながらイベントをしたいと思います。

(支援員 森)



### ★ 生活介護班①班食事会【7月30日（木）つくしの里】

本来ならレストランで美味しい食事を頂く予定でしたが、感染症予防の為、外出を自粛し、園内で「お楽しみ食事会」を実施することにしました。初めてオンラインショップで食材を注文し、ドキドキしましたが、無事にローストビーフなどの料理が届きました。盛り付けし、ビュッフェ形式で提供しました。利用者の方も大変喜ばれ、味も美味しかったです。早く思いっきり外出できるようになる事を願います。

(支援員 山田)



### ★ 開園記念日【8月1日（土）つくしの里】

6月号の里だよりでお伝えした通り、5名の利用者さん代表による利用者さん主体の開園記念祭を実施しました。本来ならば、利用者さんからの要望を取り入れた開園記念祭になるはずだったのですが、県内における新型コロナウイルス感染者増加に伴い、予定していた企画は中止となってしまいました。

その中でも、役員の皆さんには司会等の役割を担って頂き、お祝い弁当や職員による出し物、そして抽選会と、いずれも盛り上がりました。抽選会では、5名の役員の皆さんが各班を周り、プレゼンターも担って頂きました。

最後は皆で反省会。来年も役員をしたいという方もいれば、来年は次の人に譲るという方も。来年こそは利用者さん主体の、利用者さんの希望通りの開園記念祭が実現できますように。

(主任支援員 和田)



役員以外の利用者さんも準備ありがとうございます



利用者代表のみなさんお疲れ様でした！

# 行事予定

県のリスクレベルによっては変更もあります



## ☆ つくしんピック (つくしの里 中庭)

期 日：9月17日(木)

内 容：全利用者さん参加のミニ運動会です。楽しい競技を計画中です。

## ☆ 敬老会 (つくしの里)

期 日：9月19日(土)

内 容：利用者の皆さんとお祝いのハガキを準備しています。

昨年度まではご家族・後見人様を対象に送っていましたが、今年度からはご両親にのみ、お祝いのハガキを送る事になりました。ご了承くださいませようお願い致します。



ありがとうございます

ございました

今月の掲載分は、

令和二年七月二十一日～

令和二年八月二十日です

【シヨートステイ

日中一時支援事業のご利用】

( 九名 延べ 四十七日 )

※感染症予防のため、七月三十日からシヨートステイ・日中一時支援の受け入れを中止させて頂いております。

【寄付・寄贈】

- ・ 大島 照雄 様
- ・ 田上 修二 様
- ・ 馬原 伸二 様
- ・ 渡辺 昭子 様
- ・ 穴井 真紀 様
- ・ (株)アールエスエス 様
- ・ (有)千石屋石油 様
- ・ (有)ツルタ装飾 様
- ・ 肥後木村組(株) 様
- ・ 後藤 弘子 様
- ・ 林 亜己 様
- ・ 光永 順子 様
- ・ 大塚 武年 様



## お知らせ

10月末に予定しておりました「第4回秋の里まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、来場者及び関係者、そして利用者さんの健康や安全面などを第一に考え、規模を縮小して開催することとなりました。楽しみにして下さっている皆様には大変申し訳ございません。また来年お会いできるのを楽しみにしております。

【ボランティア】

- ・ 村里 和洋 様
- ・ 池田 亜紀 様
- ・ 村山 真由美 様

誠にありがとうございました。利用者さんの為に使用させて頂きます。

※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。